

メールマガジン (2012年10月号 Vol.18)

(発行所) (株)エルエルアイ出版

〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-27-4 靴下会館7階

TEL 03-3868-0738 FAX 03-5809-3650

<http://www.lli-publishing.com/>



7年で生産規模は3倍に 集成材の生産を8月開始

国産材に特化した製材工場を持つ協和木材(福島県東白川郡)。これまでのKD材に加えて、8月に集成材のJASマークを取得。本格的な生産がはじまった。

福島県、茨城県、栃木県の3県にまたがる八溝山系、近年では、九州に次ぐ日本第二位の生産規模を誇る林産地として知られるようになった。そうした動きをリードしてきた企業の一つに、この7年で3倍強の生産規模の増加に取り組んできた協和木材がある。同社の創業は1953年。現社長の佐川広興氏は営林署で森林。研修視察で欧州の林業や製材工場の仕組みを学んできた佐川社長は、山元、市売、製材を一つにまとめた一貫型生産システムの実現性を実感。国産材の相場の必要性を。国産材の相場が外材に近づきつつあった平成18年9月に埴林間工業団地に新工場を設立。開始時は原木消費量にして年間7万m³だったが、平成21年には年間1万3000m³を達成。平成22年には24時間操業を開始。平成23年には年間18万m³を達成。今年には12億円を投資して集成材工場を建設。8月から生産がはじまり年間24万m³規模の生産を目標としている。